

私たちが提言する  
～みんなをHAPPYにする  
サステイナブルツーリズム in 浜中～

北海道教育大学 釧路校  
地域社会と環境研究室

渡部 南	岡崎 聖
高山 里歩	小山内 溪
浮田 莉沙	川村 拓也
高野 まどか	山崎 柁平

# 本研究の趣旨

- \* 教育大は道外出身者が多い大学であり、道東という地域を様々な出身の人とともに見つけ直す機会が多くあったことから**外部の目線**が地域にもたらす効果を活かす活動に興味を持った。
- \* 研究室での調査活動として、長期にわたり**浜中町のまちづくり実践**について学び、強い関心と愛着をもった。
- \* これまでの研究室活動の中で、重点をおいて取り組んできた内容の1つに、**ツーリズム**があり、これを活用することで浜中町に関わる全ての人を巻き込んだ地域活性化につなげていくことができるのではと考えた。
- \* 本研究では、「**サステナブルツーリズム**」という視点から浜中町の抱える課題を解決する手段について考えていきたいと思う。

# 目次

- \* 1.浜中町の現状と課題
- \* 2.調査報告
  - 日帰調査 民泊調査
- \* 3.サステイナブルツーリズムについて
- \* 4.提言 ツアー例
  - 夏の民泊ツアー 冬の民泊ツアー
- \* 5.今後の展望と課題
- \* 6.参考文献

# 浜中町の概要



- \* 北海道浜中町
- \* 面積 423.44km<sup>2</sup>
- \* 人口 6346人(2013年9月住民基本台帳による)
- \* 主要観光地 霧多布湿原(ラムサール条約登録湿地)
- \* 主産業 農業 乳牛の飼育をはじめとする酪農  
ハーゲンダッツの原料に使われている
- 漁業 昆布 サケ マス ウニ ホッキなど
- \* 新規就農を目的に道外から移住する人が多い  
→浜中町の酪農家219件の内35件が新規就農

# 浜中町の地図



# 浜中町の課題

アンケート調査  
浜中の人声

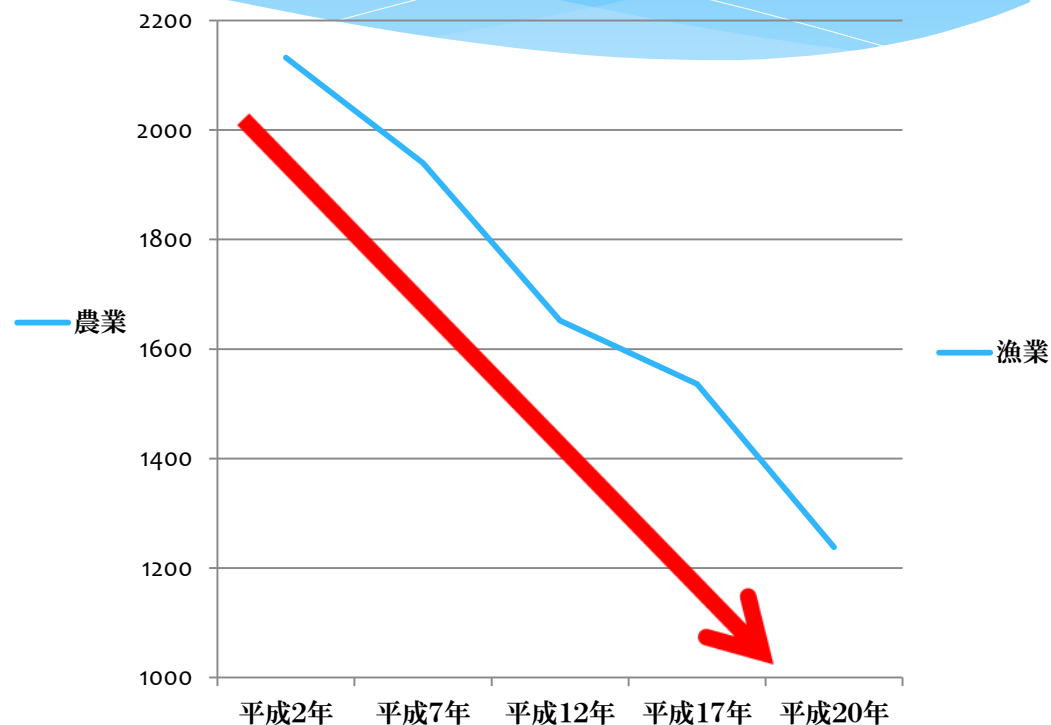
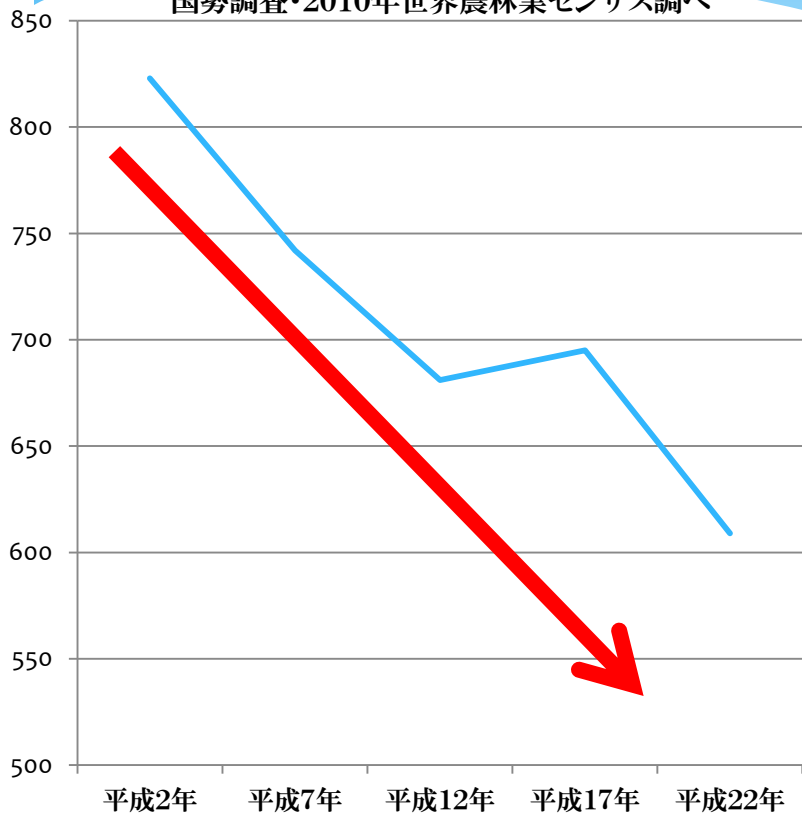
# 第一次産業就業人口の変遷

## 農業

## 漁業

国勢調査・2010年世界農林業センサス調べ

国勢調査・2008漁業センサス調べ



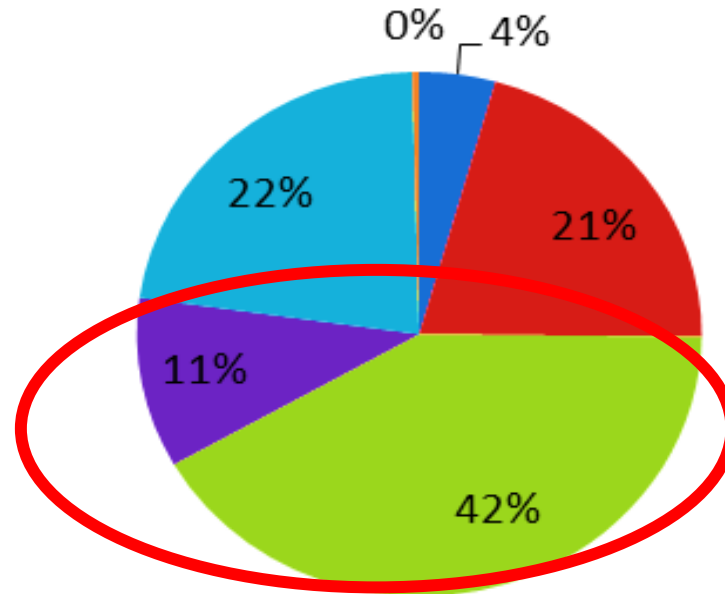
# 町内に地域活性化・まちづくりの担い手は 十分存在しているか

出典 地域活性化 観光教育プロジェクトアンケート調査

NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト 北海道教育大学釧路校・地域社会と環境研究室

2012年9月～11月 対象:浜中町民 配布数:989 回収数:513

- 大いにそう思う
- どちらかというと思う
- どちらかというと思わない
- 全く思わない
- わからない
- 無回答



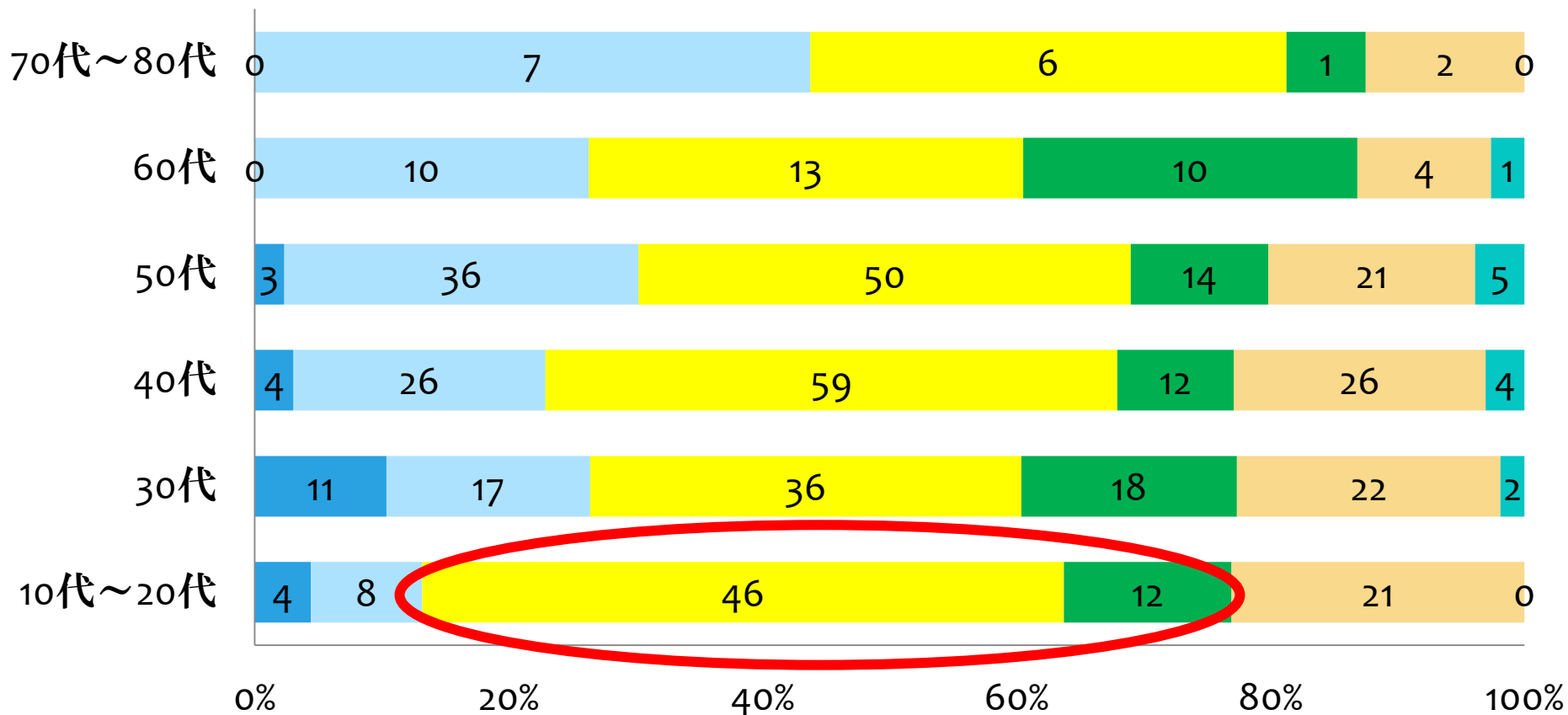


# 浜中の産業や未来は明るいか 世代別

出典 地域活性化 観光教育プロジェクトアンケート調査

NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト 北海道教育大学釧路校・地域社会と環境研究室

2012年9月～11月 対象:浜中町民 配布数:989 回収数:513



■ 大いにそう思う

■ どちらかというと思う

■ どちらかというと思わない

■ まったく思わない

■ わからない

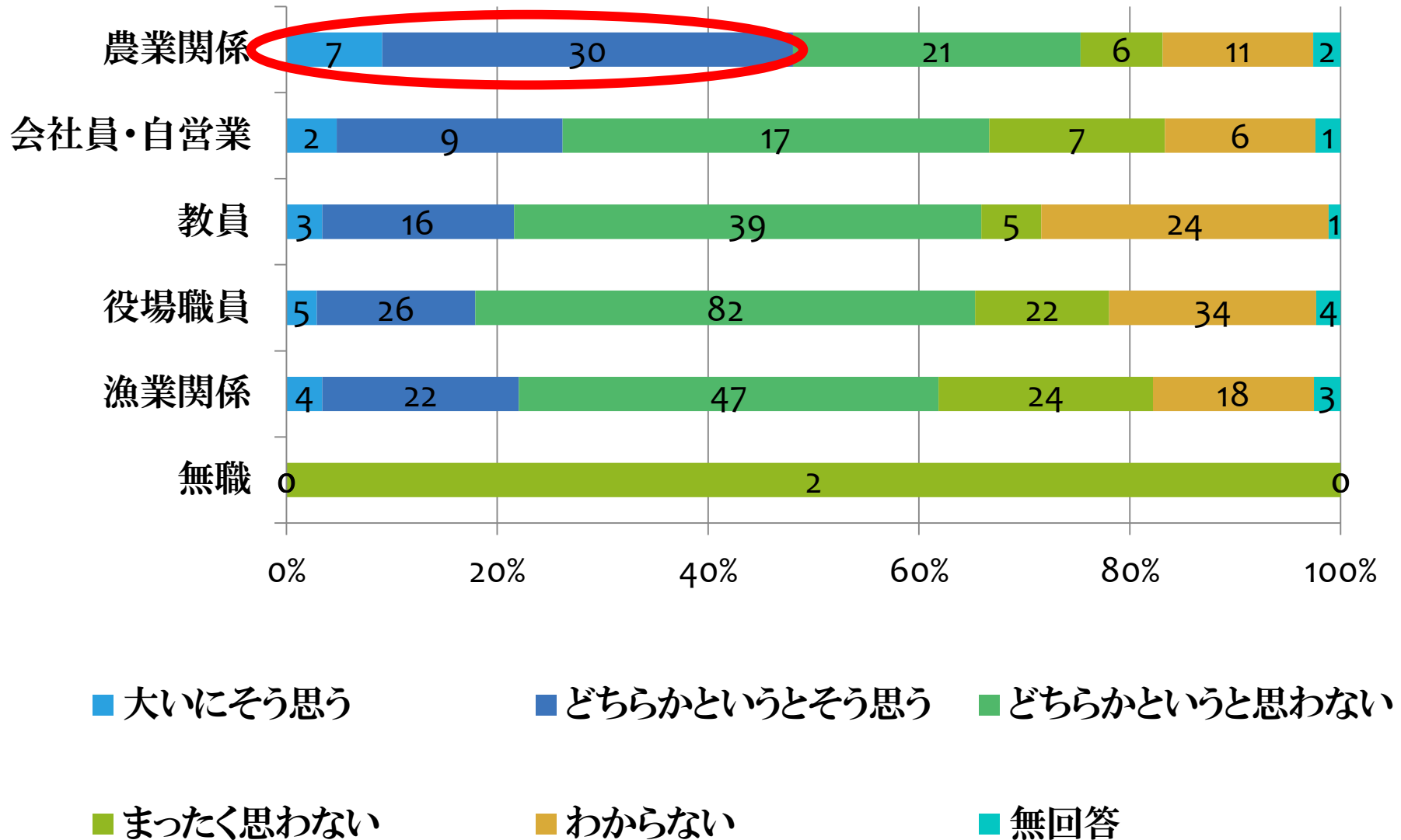
■ 無回答

# 浜中の産業や未来は明るいか 職業別

出典 地域活性化 観光教育プロジェクトアンケート調査

NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト 北海道教育大学釧路校・地域社会と環境研究室

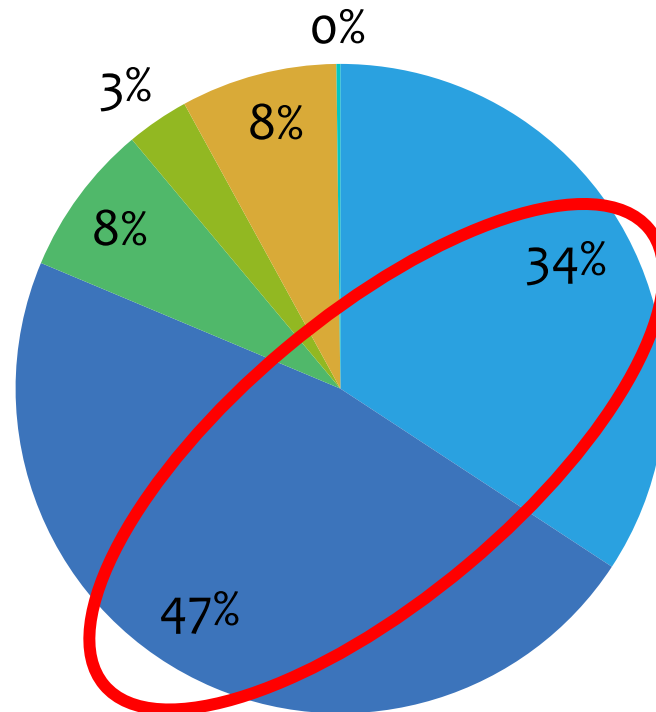
2012年9月～11月 対象:浜中町民 配布数:989 回収数:513



# 浜中町という地域、名称への愛着を持っているか

出典 地域活性化 観光教育プロジェクトアンケート調査  
NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト 北海道教育大学釧路校・地域社会と環境研究室  
2012年9月～11月 対象:浜中町民 配布数:989 回収数:513

- 大いに感じる
- どちらかというと感じる
- どちらかというと感じない
- まったく感じない
- わからない
- 無回答



## 生まれも育ちも浜中の若者 (Sさん)

浜中の人には浜中の魅力に気づいていないわけではない。  
でも、自分たちの生活が当たり前、それがふつうと思っている。  
まちづくりの活動においても、自分からやるというより、  
誰かがやっていて楽しそうだなと思ったら、参加する。

地域資源を楽しむ力  
(活用する力)

まちづくりを  
先導する人

## 新規就農者 (Mさん)

常に楽しさを見つけながら、生活をしている。  
浜中には自然がたくさんあるし、それを楽しまないのはもったいない。  
楽しいと思えば、何でも楽しくなる。

浜中の人には思いはあるけど、その思いをまとめてくれる人がいない。

地域の担い手が少ない

将来への不安

地域の未来を明るいと考えている若者が少ない

後継者がいない

浜中の地域資源の活用の仕方を見出す場をつくる

外の人と内の人と一緒に作りだす

若者が浜中のために自分たちは何ができるのかを考えるきっかけになる！

まちづくりを先導する人

酪農地帯から課題解決のヒントを見つけ出す

# 研究方法

これまで挙げてきた課題を解決する手段を探すため、  
現地調査を重ねてきた。

- ①日帰り調査(2回)霧多布湿原、酪農地帯の現場見学・聞き取り
- ②民泊調査(1泊2日)酪農体験
- ③霧多布高校を訪問し、学生とまちづくりについて意見交換
- ④冬のまるごと浜中モニターツアー体験(1泊2日)
- ⑤地域のイベントへの参加
- ⑥廃校コンサートボランティアへの参加

以上の活動は、認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの協力を  
受け実施した。

# 霧多布湿原ナショナルトラスト

## ○認定NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト

霧多布湿原保全のために2000年に設立された。(前身の団体「霧多布湿原ファンクラブ」は1986年設立)

現在では、湿原を利用したまちづくり・観光教育・エコツアーや、小学校の総合学習の一部を担当したり、修学旅行生向けの学習・体験プランの受け入れ窓口としての活動や、地域の人や外部の人とのつながりを生み出すコーディネーターとしての活動もしている。

# 調査活動①

目的：浜中にIターンして新規就農する人が多い理由を調査

## 調査した場所

### \* 浜中町就農者研修牧場

酪農を新規で始めたいと考えている人のための施設

### \* 浜中町農協 酪農技術センター

浜中町で生産している牛乳の品質・安全性の管理をする施設

### \* 大友チーズ工房

自分たちの牧場でとれた生乳を使った加工品を商品化している

### \* カヌー体験

新規就農者の趣味活動に同行させて頂いた





# 浜中町の新規就農者への支援

- \* 研修牧場... 新規就農を考える人が、1から酪農家の仕事を学ぶことができる場として設立された。全国的に見ても、設備や福利厚生がしっかりしている。離農農家から、新規就農者への土地や施設の斡旋をしている。研修中でも一世帯年間300万の収入と、住宅の提供などの支援がある。(現在7組14名が研修中)
- \* 農場賃貸料の半額を5年間町が支援してくれるなど。

全国に誇れるほどの新規就農したいという人を受け入れる充実した仕組みと支援

# 酪農現場の人の声



離農者がこれからも増えていくと、地域の  
衰退につながってしまう。  
(研修牧場)

昔ながらのやり方にこだわって感覚的な  
酪農をし続けていたら、浜中の酪農は  
受け継がれていかない。  
(技術センター)

浜中の牛乳を地産地消できないだろうか。  
(大友チーズ工房)

浜中の酪農をこれからも残していきたいという思い

# 調査活動②

## 目的

新しいツーリズムを考えるうえで地元の人の暮らしから見える浜中町の魅力を知るために、酪農家の家に実際に民泊する。酪農の仕事や暮らしを体験するとともに、酪農家の意見を直接聞いたりすることで、浜中町の観光につながる地域資源を探す。



# 酪農家の暮らしの例

- \* 3:30 起床
- \* 4:00 餌やり、搾乳、  
牛を外に出す、牛舎のそうじ
- \* 8:00 朝食、自由時間
  
- \* 15:30 牛を牛舎に入れる、  
餌やり、搾乳
- \* 19:30 夕食
- \* 21:30 就寝



# 地域の人の声①

## 浜中の魅力

自然がたくさんある。

子育ての環境が充実している。

外からくる人に対してとても温かい。

おすそ分け精神がある。

地域の中においしいものがたくさんある。

人と人とのつながりがある。



## 地域の人々の声②

### 酪農の魅力

努力して牛を育てただけ、質の良い牛乳をつくることができる。(酪農家さんA)

親は自分の仕事を子に見せることができる。子も親の仕事を見ることができる。(酪農家さんB)

仕事以外にも趣味の時間がつくれる。(酪農家さんC)

酪農は食と命を間近で感じることができる場である。

(酪農家さんD)

# 地域の人の声③

## ナショナルトラストからみた浜中

浜中にはたくさんの地域資源がたくさんあるにも関わらず、浜中の人々は外の人に対して、浜中をPRするのが得意でないように感じる。  
(職員Sさん)

地域資源の  
PR拡大の必  
要性

民泊を受け入れてくれる酪農家さんは、それぞれ受け入れる目的がちがう。酪農家さんの都合も考えながら、民泊の協力をお願いする必要がある。  
(職員Bさん)

つなぎ役の  
必要性

ツーリズムを実現していくには、つなぎ役(コーディネーター役)が必要。地域の中からそういう人材が現れてほしい。また、地域の外からもそういう人材を探しだしたい。  
(職員Uさん)

# 調査結果からの課題

①地元の人が地域資源を楽しむという視点が弱い  
⇒地域資源の楽しみ方を見出す

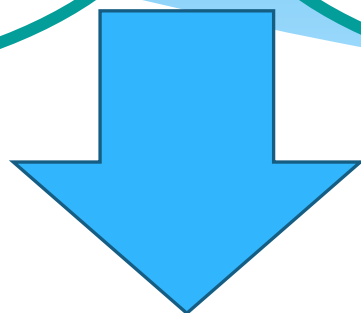
②一人一人の思いをまとめる人がいない  
⇒まちづくりの担い手を創出する

③浜中町外に新規就農の仕組みがあまり知られていない  
⇒浜中町の酪農の仕組みをPRする  
(新規就農者増加)



実体験

浜中の人声



わたしたちが提言する  
～みんなをHAPPYにする  
サステイナブルツーリズムin 浜中～

# ツーリズムを用いた地域活性化

- \* 地域住民が地域活性化を「楽しみながら」進めることができる。
- \* 観光客を誘致することによって浜中を道外にも発信でき、持続可能な地域活性化につながる。

(浜中を訪れる観光客数平成22年度**34万人**から、23年には**26万人**に減少している)

- \* **内の人**と**外の人**が関わり、互いに刺激し合う機会を設ける。

# サステイナブルツーリズムとは

## エコツーリズム×グリーンツーリズム

- \* **エコ主義** 地域環境に悪影響を与えない
- \* **生態系中心主義** 生態系に悪影響を与えない
- \* **内発的发展** 地域の人にもメリットを与える
- \* **小規模・ソフト** 地域の資源をそのまま利用する
- \* **持続可能** 地域の将来性に結びつくもの

出典「シクロによる釧路市中心市街地の活性化」～サステイナブルツーリズムの視点から～  
北海道教育大学 釧路校 地域社会と環境研究室(2011年)

# 私たちの考える サステイナブルツーリズムとは

地域資源  
を活用

異文化  
交流

人との  
繋がり

浜中の魅力発見・再認識  
将来への視野拡大

「外の人⇔内の人」から生まれるくら  
しの中における滞在型ツーリズム

# ツアーにおけるコーディネーターの役割



# 夏の民泊ツアー ～浜中の魅力を知る～

日程 :8月中旬

泊数 :3泊4日

対象 :道外の大学生(10人程度)

コーディネーター:大学生(10人程度)

地元の高校生～(10人程度)

ナショナルトラスト

募集方法 :インターネットによる募集。

# 一日目

## 廃校キャンプ

**活動内容** :アイスブレイク、野外活動、夕食、レクリエーション等

**目的** :歓迎を兼ねる。不安を取り除く。

なぜ廃校を使うか→大人数の収容。地域資源の再利用。天候に左右されない。整った設備。



## 二日目

### サイクリング

**活動内容** : 地元の高校生にガイド役になってもらい、浜中町におけるスポットめぐりをし、浜中町を知る。

**目的** : 自然環境を肌で感じる。

## 二日目夜～最終日

### 民泊

**活動内容** : 各酪農家さんに委託。

**目的** : 酪農家の生活を体験する。

**民泊ノート** → ツアーの感想を書いてもらう。これはコーディネーター役の学生が回収し、今後のツアーの改善につなげる。



# サイクリングのルート



霧多布  
湿原セ  
ンター

地産地消を  
活かした世  
界に誇れる  
カフェ！！

80分

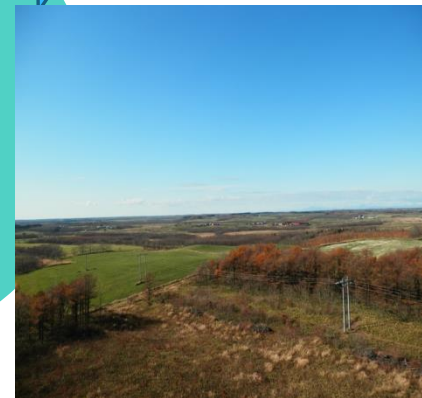
ファーム  
デザイ  
ンズ

40分

浜中町に  
おける酪  
農地帯を  
一望でき  
る！！

酪農展  
望台

40分



## 二日目

### サイクリング

**活動内容** : 地元の高校生にガイド役になってもらい、浜中町におけるスポットめぐりをし、浜中町を知る。

**目的** : 自然環境を肌で感じる。

## 二日目夜～最終日

### 民泊

**活動内容** : 各酪農家さんに委託。

**目的** : 酪農家の生活を体験する。

**民泊ノート** → ツアーの感想を書いてもらう。これはコーディネーター役の学生が回収し、今後のツアーの改善につなげる。

# 冬の民泊ツアー ～酪農の生活を知る～

日程:2月中旬

泊数:4泊5日

対象:道外の大学生(10人程度)

コーディネーター:大学生(10人程度)

地元の高校生～(10人程度)

ナショナルトラスト

募集方法:インターネットによる募集

# 一日目

## ◎アイスブレイク(自己紹介)

**活動内容** : 自己紹介

民泊先の紹介を受ける

日程確認

**目的** : お互いのことを知らない人たちが多いため、自己紹介(アイスブレイク)をする場を設け、打ち解けてもらう。

## 二日目

### ○スノーモービルor歩くスキー体験

**活動内容** : 一つの酪農家さんか湿原に行くグループに分かれ、それぞれのスポーツを体験する。

**目的** : 夏とは違う浜中町の景色を堪能しながら雪の中を簡単に散策でき、北海道だからできるウィンタースポーツを体験。



## 三日目

### ○かまくらづくり

**活動内容** : 酪農家さんの牧草地でかまくらづくり、昼食

**目的** : 雪があつてこそその活動を入れ、普段体験できないことを体験し、刺激を受ける。

かまくらづくりの楽しさ・あたたかさを知る。

## 四日目

### ◎お食事会(鍋)

**活動内容** :参加者と酪農家さんたちを含めたお食事会

**目的** :学生同士の交流の機会を設ける。

他の酪農家さん達とも交流ができ、様々な視野を広げてもらう。

酪農家さん達での交流も作ることで良い刺激を受けてもらう。

## 五日目

### ◎センターにて振り返り

**活動内容** :民泊ツアーの感想や意見など学生間で交流をする。

**目的** :意見交流をすることで様々な刺激を受ける。

このツアーで自分は何を学んだのか再確認する。

浜中の酪農家



自分の仕事に誇り



将来も続けたい

浜中の若い世代



浜中の良さに気付く



浜中への愛着が増す

外部の大学生



視野が広がる



酪農をやりたい 浜中を伝えたい

**持続可能性**

- ① 地域資源の楽しみ方がわかる
- ② まちづくりの担い手の創出
- ③ 新規就農者増加

# 今後の展望

- \* 持続的な地域発展を進めていく人材の発見・育成現場
- \* 民泊ノート→今後の浜中町の発展
- \* ツアー客→ボラバイト・インターンシップ



# 今後の課題

- \* 価格設定。
- \* コーディネーターとしての役割を地元の若い人たちに委託していく具体的な仕組み。
- \* 受け入れ側と参加する学生の持続的な確保。
- \* ツアーのPRの方法。

# 参考文献

- NPO法人霧多布ナショナルトラスト・地域社会と環境研究室 2013年  
『地域活性化・環境教育プログラム アンケート調査』
- 浜中町まちづくり課 『浜中宝島プランプロジェクト』  
<http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/file.jsp?id=61691> 2013年11月18日閲覧
- 浜中町まちづくり課広報係 『浜中町勢要覧2010』  
<http://www.townhamanaka.jp/pdf/2010yoran.pdf> 2013年11月18日閲覧
- 地域社会と環境研究室 2011年  
『「シクロによる釧路市中心市街地の活性化」～サステイナブルツーリズムの視点から～』
- JA浜中町農業協同組合 『浜中町酪農技術センターHP』  
<http://www6.marimo.or.jp/hmnk-new-farmer/> 2013年11月18日閲覧
- 田村明 2011年 『まちづくりの実践』 岩波書店
- 和田武 新川達郎 田浦健朗 平岡俊一 豊田陽介 伊与田昌慶 2011年  
『地域資源を活かす温暖化対策 自立する地域をめざして』 学芸出版社
- 日本環境教育学会 2012年 『環境教育』 教育出版

# 謝辞

お忙しい中、調査にあたり、協力していただいた

- \* NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストさん
- \* 民泊を受け入れて下さった、押切さん、新さん、土橋さん、松岡さん をはじめとした、浜中町の酪農家の皆様
- \* 浜中町農協の皆様
- \* その他多くの関係各位の皆様

に厚く御礼申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。